

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600486		
法人名	有限会社 百々		
事業所名	グループホーム百々(1階)		
所在地	岐阜県羽島郡岐南町上印食2丁目32番地		
自己評価作成日	平成24年6月28日	評価結果市町村受理日	平成24年9月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170600486&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成24年7月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成15年に開設し、今年で10周年になります。当ホームは岐阜市と岐南町の境にあり、窓からは金華山が見えます。どなたでも気軽に立ち寄って頂けるように、玄関は施錠せずいつもオープンにしてあり、ご家族の面会も多いです。ホームの庭には畑があり季節の旬な野菜を食べられます。車椅子の方が多くなってきましたが、いちご狩り、外食、ご家族様参加の誕生パーティーを行い、ご家族様同士の交流の場も設けています。これからも利用者さんの心温かい安らぎと安心感が持てるホーム作りに取り組んでいきたいと思ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、今年で開設10周年を迎えている。その間、地域とのつながりを深め、特に、利用者家族との信頼関係を大切に、互いに支えあう関係を築いている。利用者が安らぎと安心して過ごせるように、ホームを自分の「家」として位置づけている。管理者・職員は、利用者一人ひとりの残存能力を活かし、役割りを持ってもらい、自宅に居た時と変わらない自由な生活を支えている。そして、ホームの生活環境をより良いものにするために質の高いケアのあり方や、ハード面での改善等、積極的に提言し、実践している。利用者の、重度化が進むなかにあっても、日々満足し、自分のペースで暮らせるように支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らして いる (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生き とした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出か けている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安 なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔 軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(1階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な雰囲気の中で心安らぐ毎日を」送れるように、心温かいホームを目指している。理念につながる目標を毎年たてて取り組んでいる。	理念は『家庭的な雰囲気の中で心安らぐ毎日を』掲げている。目の届く位置に掲示し、全職員で毎日確認している。利用者が、日々安心して過ごせるように、心温かい暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や地域のどぶ掃除、子供110番を通して地域との交流を行っている。運営推進会議を通してグループホームの理解を得られていると感じることができた。	自治会員として、地域の清掃活動や老人会との交流、子ども110番等、地域との交流を積極的に行っている。地域のボランティアも定期的な訪問がある。近隣の人もホームの協力者・理解者となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は地域包括支援センター主催の認知症の勉強会に講師担当として参加させていただく予定である。また、見学者の介護の相談にものっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告からホームでの現状や対策をご理解して頂いたり、災害時の備蓄に対するご意見をもとに地域の方からのご協力が得られやすいように働きかけている。	会議は隔月に開催し、地域包括支援センター、自治会長、民生委員、家族が参加している。事故対策や災害対策を話し合ったり、空き部屋の現状報告などから幅広い意見を交わし、事業運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の利用者状況、待機者数、事故報告、介護相談員の受け入れだけでなく、今年は岐阜市との調整にも取り組み、岐南町と岐阜市、ホームとの連携に努めている。	町へは、毎月の運営状況、事故報告、待機(空き)状況等を報告している。町からの介護相談員を定期に受け入れている。隣接市からの利用者受け入れの際に、圏域外手続きについて相談する等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロへの取り組み」を提示している。1階ではベッド柵固定等は使用しておらず、危ない方にはセンサーを設置し早めの対応に努めている。	身体拘束をしない取り組みを行っている。転等予防には、低床にする、センサーで感知する等工夫している。特に安全上やむを得ない場合は、家族と十分話し合っって対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介助中の手の握り方ひとつ、利用者さんにとって苦痛のない方法を大切にしている。また、言葉による虐待についてはミーティングで議題にあげ、温か言葉に取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1階の方は成年後見人等、利用している方はいない。制度については一部の職員だけが理解できている現状である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ありのままのホームを見て頂き説明を行っている。入居後も質問や不安に対しては、できるだけ早急に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族と気兼ねなく話せる関係作りに取り組んでいる。利用者の方やご家族からの意見は管理者に報告する体制が出来ており、早急に対応できるように取り組んでいる。	家族の訪問が多く、直接意見を聴くようにしている。家族とは、どの職員でも、気楽に話し合いができるように良い関係を築いている。来訪者への呈茶のタイミングや、失くし物の対応等、要望があり、速やかに改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	食品や日用品等については職員が必要とするものを書きだせる方法ととっている。また冬の廊下が寒い提案から暖房を1台ずつ買い足すなど、快適な生活に向けて出来る限りの対応をしている。	管理者は、月例の職員会議で意見を聞いている。浴室手すりの位置の修正、暖房器の増設、ベランダへのスロープの設置等提案があり、改善している。車を持たない職員の外部研修への参加が、課題となっている。	車を持たない職員の外部研修への参加が課題となっているが、どうしたら参加の機会が得られるかや、職員研修のあり方を検討されたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の生活や体調に応じたシフト作りを行っている。また、定時の時間に仕事が終われるように職員同士が助け合い、声を掛け合うようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は実務者研修とリーダー研修の外部研修への参加と介護講座への参加を行っている。受講者についてはこちらで選び、車のない職員でも受講できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐南町だけでなく、岐阜市も含め情報交換に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接では必ずご本人に会い、リラックスした雰囲気になり、思いや不安を聞き取り受け止めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が何が困っているのか、何を求めているのかご本人との思いのずれなど、傾聴する中で受け止めるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	こちらの都合ではなく、ご本人とご家族と相談の上、サービスの開始時期を調整している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	広告縛りのコツや生活の知恵など教えて頂いたり、一緒に家事等を行うことで、家庭的な関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月利用者の方の生活の様子や状態、発言などを報告し、一緒に生活をしていなくても身近に感じて頂ける取り組みをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	玄関は日中施錠せず、入りやすい環境作りを行っている。またくつろいで過ごして頂けるような飲み物等の配慮を行っている。地域の方や親せきの方、友人、昔の上司の方など面会は多い。	家族の知人や親戚、同僚などが面会に来ている。呈茶でもてなし、ゆっくり話し合える場を提供している。馴染みの店での買い物、喫茶店、墓参りなどへは、家族と協力して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家族のような輪を大切にしたいため、今年からテーブルの位置を変更。利用者の方同士の会話も増えてきた。活動時もみんなでできる機会が増えてきた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても遊びに来て下さったり、利用者を紹介して下さい、これまでと変わらない関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中で思いや意向を汲み取るように努め、汲み取った意向に関してはご家族と相談している。困難な方もどうしたいかを考えながら、支援に取り組んでいる。	毎日の暮らしの中で話をしながら思いや意向を把握している。困難な人は、動作や表情から汲み取っている。それぞれの思いは、本人の視点に立ち、家族を交えて話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにおいてはこれまでの生活の把握に努め、職員間で情報を共有している。新しい情報や気づきに関しては、職員が書き込めるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、状態に応じて午後からのバイタル測定を行い体調管理に努めている。夜勤帯からの申し送り時間を設け、仕事始めに一人一人の状態が把握しやすいように取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングでケアの振り返りを行っている。例えばできるだけトイレでの排泄を大切に、数名の方がリハビリパンツから布のパンツへ変更することができたり、歩行ができるようになった。	毎月のケア会議で、モニタリングを行っている。本人・家族の意向、職員の意見やアイデアを介護計画に反映させている。状態の変化に応じて随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとに介護記録やケアプランのファイルを分けて見やすくしている。職員からの気づきは毎月のミーティングだけでなく、連絡ノートを活用して変更や情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物代行やご家族が付き添えない通院介助、散髪、身体障害者の手続きや薬局への薬の引き取りなどできる限りの対応を行っている。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の方とご家族と近所の方と喫茶店に行かれたり、利用者と同じ町内の方のボランティア、退居された方と同じ町内のボランティアの方が来て下った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの提携医の説明は行うも、かかりつけ医はご本人とご家族が自由に選択できるようにしている。また、今年から往診の先生も提携し、月に2回の往診を利用している方も見える。	入居前のかかりつけ医と、協力医に変えるかは、自由に選択している。今年から月に2回往診してくれる医師と提携し、医療の支援体制もあり。他の病院への受診は、原則家族が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中看護師が在籍、休日も電話対応し介護職との情報交換や利用者の方の体調管理に努めている。看護師は主治医と連携を図り、身体障害者の手続きや内服管理、状態報告に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はホームの情報提供を行い、スムーズに状態が把握して頂けるように努めている。退院においては必ず事前にお会いし状態を確認の上で退院調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としてできることと、できないことをご家族に説明している。が、今年度ご本人、ご家族の意向と主治医の協力、チームの理解があり、看取りを実現することができた。	重度化・終末期の指針があり、入居時に家族に説明している。常時医療が必要になり、ホームでの生活ができない場合は、他の機関に移ることとしている。ただし、家族と関係者の協力と理解の基に、自然の看取り(老衰)に応じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防の方のご協力の元、ホームで心肺蘇生、誤嚥、窒息の勉強会を行うことが出来た。皮膚の皮向けや出血に対しては全職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防・通報・避難訓練を実施。運営推進会を通して避難後の利用者の安全確保のご理解とご協力をお願いしている。備蓄類に関しては地域の方も使えるように工夫している。	年に2回、消防署の指導の下、避難誘導、通報等の訓練を実施している。地域の人にも役立つように多めの備蓄品を確保している。近隣とは、相互に協力し合える関係ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	昨年度のプライバシーの保護や言葉への配慮は今年も引き続き取り組んでいる。今年も利用者さんの立場に立った思いやりある対応をしよう！を目標にあげて取り組んでいる。	接遇を勉強会で学び、誇りを損ねない言葉かけを徹底している。命令口調や強制的な行動をとらないように、明るい表情で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起きたい、寝たい、入浴したい、したくない、やりたくないなど、ご本人の思いや希望を尊重したり、自己決定できる働きかけを行い、無理強いのない生活支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に応じて、ご本人のペースに合わせた生活支援に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の汚れ、この時期の汗による更衣はこまめに行っている。また、散髪も行い、いつまでもきれいでいたい気持ちを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆さんと一緒に活動しやすいテーブル配置にかえ、野菜の下ごしらえなど談話しながら楽しくできるようになった。活動時、2階の方が1階へ降り、一緒に交流が図れる場を設けている。	食材の下ごしらえでは、包丁を使ってもらっている。片付け、食器洗いなど一緒に行っている。食事の準備は作業台となるテーブル配置を工夫し、職員と利用者が楽しく行っている。職員も一緒に同じものを食べ、好きな食べ物で話題で会話を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせたキザミの大きさやミキサー食、おにぎりなど、安全においしく食べて頂けるように工夫している。また、水分摂取量も把握し、少ない方には好みのものをお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯洗浄の方以外に口がなかなか開けられない方にはガーゼを使用したり、職員が一緒に行うことでまねをしてやって頂くなど一人一人の状態に応じて対応している。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをつかむことでリハビリパンツから布のパンツに変更することができた。また、少しでもご家族の負担を軽減できるように、おむつやパット類を状態に応じて見直しを行っている。	排泄パターンに沿って、タイミングよくトイレに誘導している。個々に合った、おむつやパッドを選択して、費用負担を軽減している。布パンツに変え、トイレでの排泄が習慣となるように、自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1か月の排便習慣がわかるように記録している。毎朝のヨーグルトや牛乳、内服に関しては一人一人の希望や状態に応じて行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回～3回のペースで行っているが、その日の体調や気分に応じて曜日の変更を行っている。また、安全面を考慮し、介助人数を調整している。特に座位保持が困難な方の移乗や浴槽への出入りは二人介助で行っている。	週に2・3回、入浴できるように支援し、曜日も本人の希望を受け、柔軟に応じている。重度者には、安全面を重視し、2人介助で対応している。特に、負担感のないように、ゆとりを持って介助を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状態やその日の体調に応じて、一人一人に合わせた休息を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	今年度より次の日の薬のセット方法を変更、ダブルチェックができる仕組みとした。また、内服時は名前、用法、日付を声に出して確認することを徹底して取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆で談話しながら活動できるようなテーブルの配置にし、2階の方も一緒にできる機会を作っている。洗濯たたみや野菜の下ごしらえ、雑巾縫い、お盆拭き、新聞たたみや風船パレーなど活動参加を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいい時は午前中に散歩に出かけている。また、楽しみごととして買い物支援や外食、いちご狩りや水族館など外出支援に取り組んでいる。	日常的にホーム周辺を散歩している。買い物や外食へも継続して職員と一緒に出かけている。公園、いちご狩り、水族館、日帰旅行などへも家族と協力しながら出かけている。	

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持に関してはご本人の希望と管理できる力に応じて行っている。ご本人とご家族の希望であれば、事務所で預かりも行っているが、こちらで立て替えて月末の請求書に付けていることが多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	買い物代行はご家族の了解のもと行っている。また、手紙や電話は希望があれば自由に使ってもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子の方が多いため、通りやすいように広めの通路を確保している。また、皆さんがテレビを楽しむことができる席の配置にし、居心地良く過ごせるように工夫している。	居間や廊下は広々とした、ゆとりのある空間を確保している。調理場と居間が対面し、食事づくりの音や香りが漂い生活感がある。季節の貼り絵や折り紙、手づくり作品、絵画を飾り、居心地の良い空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓は利用者の方同士の関係を考慮した席の配置にしている。以前に比べると利用者同士の会話が増えてきた。ソファでのおんびり過ごされる方もみえる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ馴染の物の持ち込みをお願いしご本人にとって安らげる居室づくりを行っている。また、安全面に配慮したマットレスの高さ調整やベッドの高さなど安全面への工夫もしている。	居室には、収納ケース、家族の写真、手づくりの作品、日めくりカレンダーなど、馴染みの物を持ち込んでいる。備品等は安全に配慮して配置している。居室の表札は、認識しにくい高い位置に表示してある。	表札を目線の高さに、また、利用者の理解度に合った、文字の大きさや色使い、形などの工夫をされたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今できることを見極め、歩行か車椅子を使用するか選択している。また、傾き歩行の方には私たちがどちらに立ってサポートすることが歩き易いかを研究し実践している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600486		
法人名	有限会社 百々		
事業所名	グループホーム百々(2階)		
所在地	岐阜県羽島郡岐南町上印食2丁目32番地		
自己評価作成日	平成24年6月28日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成24年7月19日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(2階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な雰囲気の中で心安らぐ毎日を」送れるように、心温かいホームを目指している。理念につながる目標を毎年たてて取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や地域のどぶ掃除、子供110番を通して地域との交流を行っている。運営推進会議を通してグループホームの理解を得られていると感じることができた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は地域包括支援センター主催の認知症の勉強会に講師担当として参加させていただく予定である。また、見学者の介護の相談にもものっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告からホームでの現状や対策をご理解して頂いたり、災害時の備蓄に対するご意見をもとに地域の方からのご協力が得られやすいように働きかけている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の利用者状況、待機者数、事故報告、介護相談員の受け入れだけでなく、今年は岐阜市との調整にも取り組み、岐南町と岐阜市、ホームとの連携に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロへの取り組み」を提示し、入院中身体拘束をされてた方も拘束なしの生活を実現。どうしても安全面よりベッド柵が必要な方にはご家族に同意のもと使用、定期的に見直しを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者さんにとって苦痛のない介助方法を大切にしている。また、言葉による虐待についてはミーティングで議題にあげ、温か言葉に取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人を利用している方が見えるが、制度について理解しているのは一部の職員だけだと思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ありのままのホームを見て頂き説明を行っている。入居後も質問や不安に対しては、できるだけ早急に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族と気兼ねなく話せる関係作りに取り組んでいる。利用者の方やご家族からの意見は管理者に報告する体制が出来ており、早急に対応できるように取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	食品や日用品等については職員が必要とするものを書きだせる方法ととっている。また冬の廊下が寒い提案から暖房を1台ずつ買い足すなど、快適な生活に向けて出来る限りの対応をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の生活や体調に応じたシフト作りを行っている。また、定時の時間に仕事が終われるように職員同士が助け合い、声を掛け合うようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は実務者研修とリーダー研修の外部研修への参加と介護講座への参加を行っている。受講者についてはこちらで選び、車のない職員でも受講できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐南町だけでなく、岐阜市も含め情報交換に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接では必ずご本人に会い、リラックスした雰囲気になり、思いや不安を聞き取り受け止めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が何が困っているのか、何を求めているのかご本人との思いのずれなど、傾聴する中で受け止めるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	こちらの都合ではなく、ご本人とご家族と相談の上、サービスの開始時期を調整している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	広告縛りのコツや生活の知恵など教えて頂いたり、一緒に家事等を行うことで、家庭的な関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月利用者の方の生活の様子や状態、発言などを報告し、一緒に生活をしていなくても身近に感じて頂ける取り組みをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	玄関は日中施錠せず、入りやすい環境作りを行っている。またくつろいで過ごして頂けるような飲み物等の配慮を行っている。地域の方や親せきの方、友人、昔の上司の方など面会は多い。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家族のような輪を大切にしたいため、今年からテーブルの位置を変更。利用者の方同士の会話も増えてきた。活動時もみんなのできる機会が増えてきた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても遊びに来て下さったり、利用者を紹介して下さい、これまでと変わらない関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中で思いや意向を汲み取るように努め、汲み取った意向に関してはご家族と相談している。困難な方もどうしたいかを考えながら、支援に取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにおいてはこれまでの生活の把握に努め、職員間で情報を共有している。新しい情報や気づきに関しては、職員が書き込めるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、状態に応じて午後からのバイタル測定を行い体調管理に努めている。夜勤帯からの申し送り時間を設け、仕事始めに一人一人の状態が把握しやすいように取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングでケアの振り返りを行っている。最近の摂取状況から食事の見直しをしたり、とろみの強さを変更したり、排泄状況からパットの無駄のない使い方の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとに介護記録やケアプランのファイルを分けて見やすくしている。職員からの気づきは毎月のミーティングだけでなく、連絡ノートを活用して変更や情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物代行やご家族が付き添えない通院介助、散髪、身体障害者の手続きや薬局への薬の引き取りなどできる限りの対応を行っている。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の方とご家族と近所の方と喫茶店に行かれたり、利用者と同じ町内の方のボランティア、退居された方と同じ町内のボランティアの方が来て下さった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの提携医の説明は行うも、かかりつけ医はご本人とご家族が自由に選択できるようにしている。また、今年から往診の先生も提携し、月に2回の往診を利用している方も見える。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中看護師が在籍、休日も電話対応し介護職との情報交換や利用者の方の体調管理に努めている。看護師は主治医と連携を図り、身体障害者の手続きや内服管理、状態報告に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はホームの情報提供を行い、スムーズに状態が把握して頂けるように努めている。退院においては必ず事前にお会いし状態を確認の上で退院調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としてできることと、できないことをご家族に説明している。利用者さんの状態については、毎月の報告だけでなく面会時にも気になることを報告、ご家族も一緒に支え合う体制を取っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防の方のご協力の元、ホームで心肺蘇生、誤嚥、窒息の勉強会を行うことが出来た。皮膚の皮向けや出血に対しては全職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防・通報・避難訓練を実施。運営推進会を通して避難後の利用者の安全確保のご理解とご協力をお願いしている。備蓄類に関しては地域の方も使えるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	昨年度のプライバシーの保護や言葉への配慮は今年も引き続き取り組んでいる。今年では利用者さんの立場に立った思いやりある対応をしよう！を目標にあげて取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起きたい、寝たい、入浴したい、したくない、やりたくないなど、ご本人の思いや希望を尊重したり、自己決定できる働きかけを行い、無理強いのない生活支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に応じて、ご本人のペースに合わせた生活支援に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の汚れ、この時期の汗による更衣はこまめに行っている。また、全くと自分で出来ない方の手洗いをしようという職員からの意見があり、毎食行うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆さんと一緒に活動しやすいテーブル配置にかえ、野菜の下ごしらえなど談話しながら楽しくできるようになった。活动时、2階の方が1階へ降り、一緒に交流が図れる場を設けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせたキザミの大きさやおにぎり、丼ぶり、とろみの硬さなど、安全においしく食べて頂けるように工夫している。また、水分摂取量も把握し、少ない方には好みのものをお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯洗浄の方以外に口がなかなか開けれない方には柔らかいスポンジを使用したり、歯磨きの拒否が強い方にはうがい薬でうがいをやって頂くなど一人一人の状態に応じて対応している。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをつかむことでリハビリパンツから布のパンツに変更することができた。また、少しでもご家族の負担を軽減できるように、おむつやパット類を状態に応じて見直しを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1か月の排便習慣がわかるように記録している。毎朝のヨーグルトや牛乳、内服に関しては一人一人の希望や状態に応じて行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回～3回のペースで行っているが、その日の体調や気分に応じて曜日の変更を行っている。また、安全面を考慮し、介助人数を調整している。特に座位保持が困難な方の移乗や浴槽への出入りは二人介助で行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状態やその日の体調に応じて、一人一人に合わせた休息を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	今年度より次の日の薬のセット方法を変更、ダブルチェックができる仕組みとした。また、内服時は名前、用法、日付を声に出して確認することを徹底して取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆で談話しながら活動できるようなテーブルの配置にし、2階の方も一緒にできる機会を作っている。洗濯たたみや野菜の下ごしらえ、雑巾縫い、お盆拭き、新聞たたみや風船バレーなど活動参加を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいい時は午前中に散歩に出かけている。また、楽しみごととして買い物支援や外食、いちご狩りや水族館など外出支援に取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持に関してはご本人の希望と管理できる力に応じて行っている。ご本人とご家族の希望であれば、事務所で預かりも行っているが、こちらで立て替えて月末の請求書に付けていることが多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	買い物代行はご家族の了解のもと行っている。また、手紙や電話は希望があれば自由に使ってもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子の方が多いため、通りやすいように広めの通路を確保している。また、皆さんがテレビを楽しむことができる席の配置にし、居心地良く過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓は利用者の方同士の関係を考慮した席の配置にしている。以前に比べると利用者同士の会話が増えてきた。ソファでのごんびり過ごされる方もみえる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ馴染の物の持ち込みをお願いしご本人にとって安らげる居室づくりを行っている。また、安全面に配慮したマットレスの高さ調整や床への転落防止マットの使用など安全面への工夫もしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今できることを見極めつつも、ご本人の意欲に応じて今できる機能を少しでも維持できるように励ましながら取り組んでいる。		